

平成 28 年度 精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議議事摘録

日時：8 月 2 日（火）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：庁舎 6F 委員会室

1 開会

2 参加者自己紹介

※同志社大学グローバルコミュニケーション学部の中村艶子氏は、所用により欠席。

※経済産業省近畿経済産業局の細川洋一氏の代理で、外山泰氏が出席。

3 資料説明

【事務局】事務局より資料説明

4 説明内容へのコメント・意見交換

今川氏を座長として、意見交換

【今川氏】

ただいま、事務局から資料の説明があったが、地域創生戦略事業の実施状況について、あるいは KPI について、あるいは産学官金労言の連携について、どの分野からでも結構ですので、お気づきの点を自由にご発言いただくことで進めたいと思う。

精華町としては、色々と意見をいただきたいという事なので、いろんな意見を出していただきたいと思う。

【常山氏】

質問であるが、資料④の「公共的活動支援対象事業」というのは、どういう事業のことを言っているのか。

【事務局】

「公共的活動支援」ということでよろしかったでしょうか。

【常山氏】

はい。

【事務局】

こちらの事業については、特に地方創生だからということで始めた事業ではなく、ひとつには、地域の地域活動を活発に町内でも様々な方々に担っていたが、皆様が課題として考えておられるのが、次に誰がその役割を担ってもらえるのか、「世代交代」というものを課題として認識されている方々がたくさんおられ、そういった方々が一様におっしゃられるのが、「次の世代に繋ぎたい」という事がございまして、今やっただけでいる地域活動のリーダーの方々を引き継いで活動頂けるような地域人材をどのように掘り起こしているかということの一環として、精華まちづくり塾というもので人材育成のプログラムを行いますとともに、予算を伴わないものでありますと、例えば、地域活動をされる際には、京都府の地域力推進のための補助金等や各種財団の補助金があるんですけれども、そういったものを申請される際のお手伝いというか、出される際に助言をさせていただくというようなことを併せて行っているものであります。

【事務局】

補足をさせていただきますが、精華町には、約 3 万 7 千 500 人の方々がお住まいで、その中で、特に 60 歳で、だいたい定年されるわけですが、いろんな特技、ノウハウ、技術をお持ちの方が精華町にもたくさんいらっしゃいます。そういった方々が、やはりお勤めの間は、なかなか地域に目を向けていただくという機会が少ないわけで、定年をされてから、家にいる時間ができるという中で、そういった方々の知識・技術、ノウハウを、できるだけ地域で活かしていただきたい、ということが行政の側からもあり、地域住民の方々からも、知識・技術を活用して地域に役立っていただきたいという要望もありますし、定年を機に、これからどういう風に地域で活かしていこうかとお考えの方も多数いらっしゃると思います

そういった方々が地域デビューをしていただく、一つのきっかけづくりとして始めた事業が、せいかまちづくり塾であり、当然、既に地域デビューをされている方も中にはいらっしゃいますが、これから地域のために貢献をしていきたいという思いを持った方々のきっかけづくりをしていくための事業ということでご理解いただけたらと思います。

【常山氏】

例えばですが、既にされている、ふるさと案内人、シルバー人材センターの事業を支援していくのか、それとも全く新しくされる人たちを支援していくのか。

【事務局】

もともと、シルバー人材センターの事業の一つとしてされていた、ふるさと案内人の制度、今は独立して NPO 法人化されているが、それも一つの地域貢献というか、一つの事業であると思いますし、それ以外にも観光分野を中心とした活動、福祉分野、あるいは教育分野、あるいは防犯の分野があったりと、地域活動には様々な分野があるかと思いますが、そういった幅広い分野の中で、皆様がそれぞれお持ちの特技や知識、あるいはご関心のある分野で、何か見つけていただいて、地域のために活動いただこうというわけであります。

【常山氏】

事業への支援とあるが、これは助成とかするののか

【事務局】

狙いは、先ほど前段の説明でありましたが、一つは、世代間の引き継ぎが引き継がれていないということが、当初の狙いとしてあります。今、各種団体のリーダーの方が大体、後期高齢に差しかかっています。阪神淡路の NPO 元年からできた NPO の世代交代の問題とよく似ていますが、精華町で各種団体、まちづくりにかかわっていただいている方々のリーダーの年齢層が後期高齢に差しかかっている、一方、団塊の世代、もともと社会的にその世代と団塊の世代があまり世代間の交流、価値観の違いとかがなっていないように見受けられますが、主として、団塊の世代の皆さんは、精華町でも非常にたくさんいらっしゃり、その方々がうまく地域デビューしていただくためのつなぎをする。できれば、その上の人とも交流を図っていただきたいというのが当初の主とした狙いで、シルバー人材センターがこの塾に関わっているのは、正にそれで、精華町のシルバー人材センターは、以前から格好いい活動、カッコいいシルバー人材センターという評価を受けていますが、先駆的にしている、ふるさと案内人、そのリーダーの年齢層も高く、ぜひ勧誘したいという思いで、社会福祉協議会についてもそうで、リーダーに集まっていたいて、地域メンバーとなっていたく、これが最大の理由になっています。

ですので、どちらかと言えば、集まっていたいて地域デビューの作法であるとか、あるいは行政とのパートナーシップの築き方、皆さんの意見集約の仕方、ワークショップの手法を身に付けていただく等、いわゆる地域デビューの仕方を授ける一方で、そういう各種団体の世代間を超えた交流を図っていただく場、懇親会も含めてですが、そういうプログラムを用意している、これが主な狙いです。

【常山氏】

分かりました。

【今川氏】

この次の段階として、地域デビューの仕掛けとか、そういうものがあれば、ますます能力を発揮していただけるかなと思うのでよろしくお願ひしたいと思う。この塾だけでもすごい（知識・技術・能力をもった）方が来るので、ぜひその能力を逃さないように思います。

【今川氏】

他に何かございますでしょうか。

【吉田氏】

5つの基本方針の中で、これは質問ではないが、1番、情報発信、それと地元の特産、ブランド力について。

精華町の商工会では、今年の5月に国の認定を賜りまして、国のおかげで、5年計画でやってもらえるという事で、まさしく、このシティプロモーションと並行事業となろうかと思いますが、一番に商工会として、農商工の連携を図りたいという事で、ブランド事業を立ち上げたいという計画を国に発信していきまして、ブランド力を出すことについては、このような有識者の方々の意見を賜りながら、一つの「精華町の未来を考える会」というものを立ち上げようではないかという話になっているところである。

そちらについては、今後進めていくわけですが、駅を降りて、今のまちづくり活動をされている、ふるさと案内人さんの広報活動等、冊子は掲示板に入っているのですが、何が言いたいかというと、目に見える、人がやっているような、机を置いたりした情報発信ができないかと、役場の産業振興課にお願いしていたところ、あれが町道だということで、所管している建設課と話を進めていますという話を聞いてから、首を長くして、ずいぶん待っているが、そのあたりの情報発信の状況とか、人がやるような、例えば、のぼりを立てるとか、もし、町が確保できれば、精華町の商工会としても全力で人を出したりとか、これは販売ではないんです。情報発信ですから。今月でしたら、夏祭りとか、各自治会でされている。光台とか精華台、谷もされると聞いています。そういった、毎月々されるような、情報発信を目に見えるよう形でできたらという思いが一番であります。

それと、ツアー・オブ・ジャパンの話もありましたけど、商工会でテントを建てて、何を行ったかということ、相楽5市町村の中で各市町村のブランド品を

出してくださいという事で、相楽地区の商工会の連絡協議会を呼びまして、精華町商工会が当番で人的な協力は行ったのですが、物的な支援は、各商工会でお茶とか特産を出してもらいました。おそらく来年につながるだろうと思っています。

あれだけ月曜の天候の悪い中で集まるという事は、かなり情報発信をされているんだろうと思いますが、そういう情報発信のことを計画に一番にあげてもらっているのは非常にありがたいと思っています。

もう一つは、日本遺産に認定されたこと。精華町では、北稲八間地区内の個人宅でお茶を作っておられたという事をきいております。振興局に行つてくると、ポスターに精華町、日の丸というか赤いマークが取れたという事で町長非常に喜んでおられました。そういった情報発信に力入れて取り組んでいただけたらと思います。

とりとめのない話であるが以上です。

【事務局】

多岐にわたるご意見ありがとうございます。

大きく3点あったかと思います。

まず1点目、特に駅、おそらく祝園駅のことと思いますが、祝園駅、新祝園駅を降りたところで、何かのぼりを立てたりとか、情報発信できる場所が設定できないかという事で、既に産業振興課にも投げかけをしていただいているというお話でございました。

今、町道扱いという事で建設課の所管で、いわゆる祝園駅と新祝園駅を結ぶ東西連絡通路がございます。これにつきましては、今ありましたように町道扱いという事になっておりますので、基本的には、そういう取り扱いで、何か施設を設けるといふ部分で、いろんなハードルが施設の管理上あるという事は、担当課から聞いている次第であります。

そうした中で、例えば、近鉄の新田辺の駅前においては、観光案内所的なコーナーを設置されている等は、聞き及んでいるところですが、精華町においては、シルバー人材センターのふるさと案内人の会という、先ほどお話がありましたけれども、精華町では、まだ観光協会というような組織等は、立ち上がっておらず、観光の部分では他の市町と比べると、取り組みという部分については、まだまだ出遅れている部分がございます。そういった部分は、今回、地方創生のいろんな交付金を活用しながら、シティプロモーションの一環ということで、種々取り組みを進めているところですが、やはり、拠点を設置するにしても、いかにその施設を運営していくのか、人的な手当ても含めて考えなければならないという事で、精華町としてもシティプロモーションを進め

ていく上では、情報発信の拠点の必要性について、十分認識しているところであるが、実際何を発信するのか、運営体制どうするのかといった、克服していかなければならない種々の課題がありますので、そういった部分については、順次整理をしながら進めていきたいと考えております。

2点目のツアー・オブ・ジャパンの情報発信という所ですが、今回ブースを設けていただきまして、相楽 5 市町村の共通した取組という事で、精華町商工会が今回代表という事で取り組んでいただいたということで、かなりの PR 効果があったものと認識しています。ただし、今回が初めての開催という事で、どれだけの人が来ていただけるのか全くわからない、手探りの状態でのスタートという事であったわけですが、今もありましたように、午前中、朝一番は天候が悪い中で、ふたを開けると約 5 万人の方々にお越しいただいたという事からすると、次年度に向けては、非常にツアー・オブ・ジャパンの開催によって、情報発信という一つの良い機会であったと今回分かりましたので、次年度においては、今年度の反省点も踏まえまして、より良いものとなるよう、行政、商工会をはじめ、各種団体の皆様と力を合わせて、情報発信の強化に努めていきたいと考えております。

3点目の日本遺産につきましても、認定はしていただきましたが、まだまだ PR ができていないというのが現状としてございます。現状でいきますと、北稲八間地区内にお茶が残っているという事で認定をいただいたわけですが、そこが個人のお宅がある部分でありますため、そこに積極的に PR をして多くの方にお越しをいただいてというのは、現実問題として難しい部分もございます。せっかく今回認定をいただいたので、それをどのように活用していくのかにつきましては、行政内部でも、検討させていただいているところですので、一定整理ができた段階で、どのように PR していくのかについては、商工会様ともご相談させていただきながら、できるだけ情報発信していきたいと考えているので、今しばらくお時間をいただければと考えていますので、よろしくお願いいたします。

【今川氏】

他に何かご意見はございますでしょうか。

【外山氏】

総合戦略の KPI については、今ここに挙げていることから増えることは無いという事でよろしいか。

【事務局】

加速化交付金の事業に対しての KPI については、交付金向けに内閣府からの助言いただきながら設定しているところであり、できるだけ、総合戦略の中にある指標を使っていきたいという思いがあったのですが、今回は特に交流人口の拡大ということがテーマで捉えられたということがございまして、例えば、観光消費額というものを設定してはどうか、小売業における人口一人当たりの商品販売額を設定してはどうかという事で、地域創生戦略には直接的に数値は出てきていませんが、加速化交付金の申請上における数値目標には設定しているものは若干ございます。

【外山】

それに関して、この会議では、加速化交付金ではなく、戦略の方の KPI を扱うという整理でよろしかったでしょうか。

【事務局】

加速化交付金の事業は平成 28 年度で執行する部分もございますので、次の来年開催させていただく際には、その辺の数値も併せてご報告させていただきたいと思います。

【外山】

もう少し KPI について伺いするが、地方創生では KPI と PDCA サイクルが非常に重要という事で、国の方からきていまして、その中で、KPI をみながら PDCA を回していく必要があるわけですが、平成 27 年度の一年目のところで結果を見てみますと、目標値に既に達成しているものがあるという、素晴らしいものだなと思う一方で、平成 31 年度までに達成できるのかなと、KPI を考え直さないといけないものなのかなと考えております。

詳しいところは、これからというお話もありましたので、そのあたりは分析をしていただければと思います。

あと、4 年間あるように見えて、今から PDCA をまわして、やっといこうとしても、平成 28 年度に向けてできることは、あと半年しかなく非常に短い。

そういった意味では、比較的スピードを上げて回していかないと、次の対策を打ったら、ほぼ期間が終わってしまうという時期になりかけるという事が懸念されるので、どういうスケジュール感でされるのか教えていただければと思う。

【事務局】

今のお話にあったように平成 27 年度は一年あったように見えて、戦略も同時

に作っていた時期でもあり、基準値を設定するのに平成 27 年度が終わったというところもあります。

KPI に対する取り組みも、本格的に行っていけるのが平成 28 年度以降、しかも、おっしゃるとおり、あと半年もないという事で、新たに採択を受ける加速化交付金の 2 次分、そして新型交付金である推進交付金が、もう少しすると骨格が固まってくるのかなという所でございますので、平成 28 年度の下半期と、平成 29 年度が、一つのカギになってくるのかなと考えておりますので、そのあたりを見据えながら、KPI の数値の動向をみて、一定、平成 28 年度の数値が出た段階で、達成ができるのかどうか、変えないといけないのかという、今後の方針が見えてくると考えているところです。

【事務局】

本日、事業部長が欠席ですので、中でオーソライズされている話まではできないのですが、KPI 設定のなかで、もう少し観光の消費の関係とか、交流の人口の増加、精華町の場合の地方創生の大きな目標、設定に見合った KPI、ニュアンスが必要だという話で、外山さんから、見直すに当たっては急いでしないと評価する時間がないという話がありましたが、まさにその通りで、先ほどもありました、ツアー・オブ・ジャパンも、まだ、町としての総括が終わっておりませんが、先日、全国の実績報告が終わったところで、これから、それぞれの地区ごとに総括をしていきますが、少なくとも精華町ではっきり言えることは、初年度は非常にリスクが大きく、大店法の中で出店されたお店がセンターゾーンにあるのですが、彼らは、むしろ、そんなに車をとめられたら邪魔だという感覚で、町一丸での取り組みとなっていないというのは、明らかでした。もっと情報発信して、商工関係、観光消費にかかわる事業所が全体として、同じ方向を向いて、目標に向けて力を合わせていくという、非常に大きな課題があり、急がないといけないと思っています。

【今川氏】

他に何かご意見はございますでしょうか。

【鹿谷氏】

今日初めて参加させていただいて、ご意見させていただくようなことはないですけども、やはり地元の金融機関という事もありますので、地方創生というテーマは、地域の行政だけでなく、金融機関にも求められていることですので、ともに連携させていただきたいと考えている。

【今川氏】

他に何かございますでしょうか。

【吉田氏】

先日、お茶の京都の合同会議があったのですが、その中で京都府から言われたのが、各町村の祭りで、来年（お茶の京都の）ターゲットイヤーになるんですけれども、そのお茶の京都のターゲットイヤーの本番にあたり、各祭りの時にブースなり、いろいろ考えてくださいというようなことがあった。

それについて、行政の市町村の祭りに絡められるのは結構ですけれども、ここにお茶の京都にもとづく拠点の設置という計画があるが、行政として、情報発信についてどのようにしていくのか。

【事務局】

今、吉田会長から、お茶の京都という事で、来年ターゲットイヤーという事で、精華町としてどのようにPRしていくのかというお話でありましたが、今更ながらではありますが、例えばですが、お茶の京都の取り組みの一環として、精華スイーツタウンガイドというPR冊子を作成し、京都駅にある観光案内所に置いていただいたり、色々な拠点に置かせていただいたり等、スイーツタウンとして精華町をPRさせていただいております。これが非常に好評で、置けばすぐなくなるという状況で、1万部刷っているんですが、もう残り1千を切っているという状況で、こういったところをまた、新たに発行していく取り組みも必要かと思えます。

また、KPIで設定させていただいております、お茶の京都構想にもとづく拠点の設置という部分についてですが、精華町としてのお茶の京都の計画の中で掲げさせていただいております、精華町においては、けいはんな記念公園を拠点として位置づけさせていただいて、記念公園を中心に、お茶の京都とタイアップをしながら、PRをしていくというところです。

最終的には来年度がターゲットイヤーという事で、それを機に精華町としてもタイアップをしていかなければならないと考えているところで、つい先日、奈良交通の路線バスが精華町内に走っているのですが、精華町内だけでなく奈良県域を中心に走っているわけですが、そのバスを広告に見立てまして、バスの車体を全面広告にということで、精華スイーツタウンなり、あるいは京町セイカを車体に全面広告にして、バス2台で奈良県域を中心に走ることで、精華町に足を運んでいただけるようにという事でPRをさせていただくという取り組みもしている。それらの資料については、お茶の京都の事業の一環という事でさせていただいている。今後、ターゲットイヤーに向けて、これらの取り組み

をさらに加速をさせていく考えです。

【事務局】

補足といたしまして、スイーツタウンのバスのラッピングについて、経費については、地方創生の加速化交付金の1次募集で採択を受けているもので実施をしているものです。

また、お茶の京都で申し上げますと、来年度、京都府が計画しているお茶の京都博というものが、一つのターゲットになっているのですが、これに向けて、お茶の京都 DMO という、複数の地方公共団体が集まりまして、広域的な観光振興の組織を立ち上げようという事で、キックオフがされたと担当課から聞いているところです。

また、精華町として、お茶の京都を盛り上げるために、加速化交付金を活用した事業をこれからも展開してまいるわけですが、その一つとして、インバウンドというものを取り上げておりまして、その一環として、あくまで試行的にはありますが、今回、加速化交付金で採択されたという事もございまして、今年の5月の末、ツアー・オブ・ジャパンの前の週になりますが、台湾で行われた国際観光博覧会に相楽地域の5市町村と京都府の合同で、台湾でブース出展をしまして、主にお茶の京都をメインに相楽地域のPRをしましたところ、思いのほか好評で、たくさんの方がブースに来られ、お茶の試飲やスイーツの試食というものを喜んでいただいたという事で、相楽にどうやって行くんだという質問もあったという事で、ある程度、事業としても効果があったと聞かせていただいたところです。

こういったインバウンドという外国人観光客の呼び込みというものの一つの視点として加えまして取り組んでいきたいと考えているところです。

【今川氏】

そのあたりについて、効果があったかなかったという指標みたいなものはあるのですか。

拠点の設置という事で、既に目標値を満たしてはいるが、その先の効果、どれだけお金がどれだけ落ちたとか等。

【事務局】

精華町として難しいところが、現在、お茶を作っていないという所がございまして、その部分をスイーツに置き換えたり、その他の観光事業に置き換えたりといったことがございます。

その部分で、まずは、交流人口の増加というのがメインの指標になってまい

るかと思います。例えば、平日における滞在人口率という KPI も設定させていただいておりますけれども、そういった部分で、いかに昼間に人が精華町にいていただけるか、このあたりを主眼においた KPI も効果検証してまいりたいと思います。

【事務局】

今の効果の話で先ほど、スイーツパンフレットについて、1万部刷ってという話がありましたが、現在、掲載されているスイーツ店に対する問い合わせがあるという事を聞いておりまして、それを所管している事業部が本日出席しておりませんが、事業部でも、どれだけの問い合わせがあって、どれだけの商品が売れたか等、聞き取り調査を行っていくと聞いておりまして、具体的な数字については今後明らかになってくると思われます。

【今川氏】

分かりました。
他に何かございますでしょうか。

【常山氏】

精華町のホームページについて、せいか舎について、民衆参加型で他に例がないと思う。私の方でも機会があればPRしたいと思う。
ボイスロイドについて、ATRのベンチャーが企画したのか。

【事務局】

ボイスロイドの基になる音声合成の技術を開発され、販売しているわけではなく、機能として開発をされている。その技術を使って、ボイスロイドというものが出来上がっているという事である。

【常山氏】

分かりました。

【今川氏】

他によろしいでしょうか。
せっかく萌えキャラを使っているので、ぜひ駅も含めて、明るい雰囲気があるといいなと思います。

【事務局】

あまり一気にすると、行き過ぎる部分もある。他の団体にありますようにハレーションを起こす可能性もある。探り探りやらせていただきたいと思う。

【今川氏】

分かりました。

他に何かございますでしょうか。

【外山氏】

先ほどの続きになるが、KPI を回して行って、改良を進めながら、という事でしたけれども、まだ国としては、これから地方創生の交付金を募集中という事でして、今回検証していく中で、もっと突っ込んでここをやろう、とかありましたら、ぜひご検討いただき、新たにその部分の事業を考えていただきたい。またその際には、ぜひ私どももお手伝いさせていただきたいのでよろしくお願いしたい。

【事務局】

今回、地方創生推進交付金の2次募集という事で、これから始まっていくわけではありますが、精華町としても、できればそこに乗っていきたいという思いもあり、内部で検討を進めておりまして、具体的に中身や方向性が決まりましたら、近畿経済産業局様にもご相談させていただきたいと考えておりますのでその節にはよろしくお願いしたい。

【今川氏】

よろしいでしょうか。

また、何かお気づきの点があれば、事務局までお伝えいただければと思います。

本日は、これでコメント、意見をいただくという事で終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

【事務局】

本日いただいた意見を参考にしながら、精華町の地域創生の取り組みを進めてまいりますとともに、ただいま報告させていただいた KPI の達成状況等については後日ホームページに公表したいと考えております。以上です。

5 事務連絡

6 閉会